（別紙3）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1174200707		
法人名	有限会社　おのざわ		
事業所名	さくらプラザ		
所在地	埼玉県児玉郡神川町大字元阿保639－1		
自己評価作成日	平成22年3月8日	評価結果市町村受理日	平成22年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174200707&SCD=320・

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2－241
訪問調査日	平成22年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「家庭的な雰囲気の中、入居者と職員が一緒に明るく暮らすことが出来るホーム」を目指しております。
食事、掃除、洗濯などといった家事や生活の中の様々な場面で、入居者と職員が一緒の時間を過ごし、一緒に作業を行っております。
この「一緒の時間」が、ホームをより家庭的にし、さらに入居者の心身機能の維持を図ることができると考え、「一緒に」というグループホームの基本をしっかり守るとことを大切にしてケアを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

果樹園と住宅に囲まれた静かな環境の中にあり、中央の玄関から翼を広げたように左右対称の独立したユニットを持つホームである。手入れの行き届いた花壇があり、ホーム愛犬「小梅」が来客を知らせ、迎えてくれる。ホーム内は、広い廊下に吹き抜けの天窓があり、明るく開放感あるスペースとなっている。居室のデッキテラスから庭に自由に出入りがする事が出来、入居者が丹精込めて花壇作りに励んでいる。「家庭的な雰囲気の中、入居者と職員が一緒に明るく暮らす事が出来るホーム」の理念の通り、入居者がそれぞれの能力を生かし、役割を持ち、生き生きと生活し、職員が家族のように暖かく見守っている。職員の聞き取りの中から、職員がいつでも入居者の視線に立ち、支援する事に喜びや生甲斐を持っていることがうかがえる。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげるように努めている。	開設当時の理念を一年後に見直し、「入居者を中心に何事も一緒に」を合言葉とし、「家庭的な雰囲気」を理念に取り組んでいる。入居者が生き生きと日常生活を送る為、職員が理念を共有し、さりげない支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花壇づくりに定期的に参加している。	地域の昔ながらの行事等が廃止となり、近くの公園の四季折々の花壇作りへの参加が唯一の交流の場となっている。小中学生の体験学習の受け入れは、入居者にとっての楽しみとなっている。	公園の清掃、草むしり等地元の環境整備活動への参加程度と地域との交流の場が少ない。社協へ協力を呼び掛け、ボランティアの育成や受け入れが出来る体制作りが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における話し合いを通じ、上記の花壇づくりへの参加が開始された。	運営推進会議は、包括支援センター職員、区長、家族代表、管理者、職員で構成している。入居者の状況やホームの運営・取り組みを説明し、理解が深まっている。新年度から奇数月に開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者状況の報告等、必要に応じた連絡の他、月1回、包括支援センターで開催されるケアマネ連絡会議においても、町職員に必要に応じ相談を行っている。	町担当者へ入居者の状況や入退所等の報告を行っている。月１回のケアマネ連絡会に出席し、近隣事業所と共に情報交換や連携等を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見通しのあまり良くなく、交通量の多い道路に面しているため、現在、玄関に施錠しているが、食堂のベランダに通じる出入り口は施錠せず出入りが自由にできるようにしている。又、玄関の施錠についても今後検討していきたい。	身体的・精神的な身体拘束を行わないケアを実践している。ベランダから庭へ自由に出入り出来、花壇の手入れや犬の世話が行える。目の届かない玄関の施錠のみ行っているが、施錠しないで済む方法を職員間で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加するなどして学ぶ機会を持ち、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望をいただけるよう記載用紙を玄関に用意いている。	意見箱「みなさまの声」を設置しているが、面会時に家族から直接意見や要望を確認しているので、活用されていない。日々の生活の中での気づきは、申し送りノートや会議の中で検討している。今後は定期的に家族アンケートを実施し、運営に反映させたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において機会を設けている。	職員会議・カンファレンス時に、職員の要望やケアに関しての話し合いを行っている。職員の気づきにより起立性低血圧の方のケア方法を学び、共有する等改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働状況を把握し、労働時間や条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、研修参加の機会を作るとともに、看護師を職員に迎えることによりケアの力量の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者3施設との定例の交流により、介護サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人が困っていること、望むことを把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族が困っていること、要望などを把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らすという関係となるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支える関係となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙のやり取りにより関係が途切れないよう支援している。	遠方の家族や親せきへの手紙のやり取りを支援する事でこれまで以上に密な関係が築けたり、趣味の日本舞踊を支援する為に職員が習うケースもある。馴染みの床屋へ出掛けたり、顔なじみの移動美容室を利用する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす関係となるような支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から、希望や意向を把握するように努め、それが困難な場合は生活の中で様子を観察することにより把握するよう努めている。	日々の生活の中で、表情や会話、行動から希望や意向を把握するよう努めている。決して無理強いはせず、思い思いに得意な事に参加し、力が発揮出来るよう支援し、入居者主体のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談などにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察等により把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	希望等を聞き取り、ケアカンフレンスの結果を計画に反映させている。	モニタリングは職員全員で取り組んでいる。カンファレンスの日時を設定し、原則全職員が出席し、意見やアイデアを出し、欠席の場合は事前に意見を担当者へ伝え、介護計画に反映している。急変の場合は、その場で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成にあたっては個別記録を重視して作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居に当たって、馴染むのに時間がかかりそうな方についてはデイサービスのような形で、日中だけ来ていただいて試す機会を作るなどの対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域資源を活かすことができるよう援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診に来てくれるクリニックもあり、それを含め入居時に本人、家族の希望を確認し対応している。	入居時に、協力医（月二回往診）、及び、様態の変化に対応してくれる協力医療機関等を説明している。現在は全入居者が協力医を希望しており、その他の受診に対しては、家族と連携を図り、出来る範囲で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び状態に応じて説明を行いながら支援している。	入居時に、重度化と終末期について家族の意向を確認し、ホームの方針等を含めた話し合いがもたれている。カンファレンスの中でホームの対応が困難になってきた場合は、家族との話し合いのもと、協力医療機関や特養等と連携を図り、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の講習等の参加はすすめているが、定期的に行うには至っていないので今後検討していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定の訓練を行っている。地域との協力体制については運営推進会議を通じて検討している。	昼夜想定の避難訓練を職員と入居者全員で年2回実施している。運営推進会議で地域への協力・参加を求め、訓練のお知らせを配布しているが、日中留守の方が多く、参加には至っていない。	今後も運営推進会議で取り上げ、自警団や地域住民と相互の協力体制が築けるよう、理解を深めていくことが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけの仕方については注意して対応している。	一人ひとりの人格を尊重する言葉掛けや振る舞いに十分配慮している。相応しくない行動が見られた場合は、職員間でさり気なく注意し合い、会議の中で検証し、改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定の機会を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースは大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて一緒に準備、片づけを行っている。	ユニット毎の食材に合わせた献立となっている。キッチンの中で手伝いの方、リビングで下ごしらえの方と、入居者全員が役割を持ち、準備から後片付けまで生き生きと取り組んでいる。誕生日会の恒例の出前は、入居者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	個別の排泄パターンに基づき、トイレでの排泄を基本とした支援を行っている。ホームのトイレは広く、立位困難の方でも職員2人態勢で援助出来るスペースがある。又、適切な誘導により布パンツに自立出来た方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂れるよう配慮するなどして取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴を実施し出来るだけ希望に添えるよう配慮している。	毎日午前中の暖かい時間帯にゆったりと入浴出来る体制がある。入浴回数は定めず、個々の希望に応じている。今まで入浴拒否やトラブルはない。入浴の他に足浴を楽しむことも出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の記録に服用している薬の情報をファイルし確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や能力を活かすことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら外出できるよう支援することに努めている。	散歩の他に手紙を出しにポストまで出掛けたり、農協の直売所まで食材の買い出しに行く等、日常的に外出する機会がある。初詣や花見等にはホームの車で出掛け、家族との外出や外泊への支援も行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と話し合いのうえ、所持したり使う機会が持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などの備品は家庭的なものを使用し、季節に合わせた花や飾りをすることで、居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	広い廊下の先のリビングは、上部が吹き抜けになり、程よい明るさと広い空間で、自然な温度や音を感じる事が出来る。新聞を読む方や洗濯物を畳む等のお手伝いをする方等、一人ひとりの生活のペースを大切した居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけではなく様々な場所にソファーや椅子を置き1人になれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、使い慣れたものを持ってきていただくよう勧めている。	居室には入居前からの使い慣れた家具や品々が持ち込まれている。家族写真やホームで作成した作品を飾ったり、植物を育てたり、入居者本位の居室作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や各居室ドアへの飾りなどによりそれぞれの能力を活かすことができるよう配慮している。		